

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-161486

(43)Date of publication of application : 19.06.2001

(51)Int.Cl.

A47C 7/38

(21)Application number : 11-376554

(71)Applicant : KANEDA TOSHIMITSU

(22)Date of filing : 09.12.1999

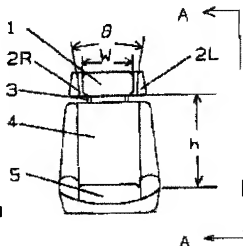
(72)Inventor : KANEDA TOSHIMITSU

(54) HEADREST OF CHAIR APPLIED TO LUMBAGO

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a means of training a neck and get rid of stress because it is medically recognized as effective to strengthen the neck as one of the prevention and a treatment of lumbago and because it is not good for the prevention of lumbago and stress to spend a long time in the same posture when moving to a long distance by using a chair for many hours in an airplane, an electric railcar, a bus and an automobile.

SOLUTION: Side wings 2L and 2R are arranged on both ends of a headrest 1 of a chair, and these side wings are made at an almost right angle in a 'U shape' in the lateral lengthwise direction of the headrest. In a temple part (the upper side of an ear), a pressing-down angle θ is imparted in the upward direction to rightly keep a posture when pressing down a palm and the temple part.



(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-161486

(P2001-161486A)

(43) 公開日 平成13年6月19日 (2001.6.19)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

Fコード (参考)

A 4 7 C 7/38

A 4 7 C 7/38

S B 0 8 4

特許請求 請求項 請求項の範囲 1 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-376554

(71) 出願人 500019678

兼田 年光

岡山県岡山市新本5564

(22) 出願日 平成11年12月9日 (1999.12.9)

(72) 発明者 兼田 年光

岡山県岡山市新本5564

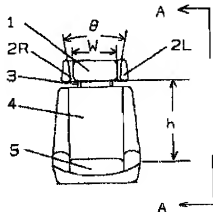
Fターム (参考) 38084 0407 0813 0007

(54) 【発明の名称】 腰痛に適用した椅子用ヘッドレスト

(57) 【要約】

【課題】腰痛の予防と治療の一つに、首を強くすることが効果的であることが医学的に認められている。更に飛行機、電車、バス、自動車等、遠距離長時間椅子を利用して移動する場合同じ姿勢で長時間過ごすとき腰痛には良くないストレスが増える。このため首を揺る手振とストレス解消を図る。

【解決手段】椅子のヘッドレスト1の両端に、サイドウイング2L、2Rを設け、このサイドウイングはヘッドレストの左右長手方向に対して、ほぼ直角に“コ”字形に作られる。更に側頭部（耳の上側）は上方向に押付角を持たせて手のひらと側頭部との押付時の姿勢を正しく保つようにする。



特開 2001-161486

2

1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ヘッドレスト 1 の両端にサイドウイング 2 し、2 R が設けられ、サイドウイング 2 し、2 R は、ヘッドレスト 1 の左右長手方向に対して、ほぼ直角に「コ」の字” 形になるように設けられた座席に適用した椅子用ヘッドレスト

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、人体の腰痛の予防と治療の一つを兼ね備えた、健康増進に役立つ椅子を提供するものである。この発明の椅子は、自動車、電車、船舶、飛行機等の乗物や、テレビ鑑賞、読書、作業用等の分野に活用出来るものである。

【0002】

【従来の技術】 多くの入道が腰痛に悩まされているが、その予防と治療方法に関しては、医学的に多くの方法が提案されている。その一つに、首の筋内を鍛えることも非常に効果的であると言われている。首の筋内を強くして、頭をきちんと握るようにすれば、腰痛になり難く、治療に役立つことが認められている。

【0003】 このため左手のひらを左手の上側に持って行き、左手と頭を押し合い、又反対側は右手のひらを右耳の上側に持って行き、右手と頭を押し合い、この方法を繰り返して行うことで腰痛の予防と治療の一つを行っている。

【0004】 また、人は首を強くする運動はスリング、希少なスポーツを行っている入道を除いて、意外に首が弱くなる運動を行っている人は少ない。特に、首の横方向の運動量は非常に少なく、奪奪えることも多々発生している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 この発明は、腰痛の予防と治療の一つに、首を強くする運動を行う場合の行い易さと、その運動をする機会を多く作ることにあり、医学的に、首を強くすれば、腰痛に効果があることが判っていても実際に腰痛に罹り悩んだ入連で右手左手より簡単に運動が出来ても、その運動をする機会を適時作ることは難しく、まして腰痛に罹ったことのない入連にとっては、面倒で怠り癖である。従って、首を強くするための運動を左右の手を使う場合より一層行い易く、且つ多くの機会が得られるようにすることにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、一に首の強さを増すこと、特に構方向的力に対する強さを増えることにある。

【0007】 個人用の椅子の場合には、図 1 に示すように背もたれの上端部に設けられるヘッドレスト 1 の左右両端から、そのヘッドレスト 1 の長手方向に対してほぼ直角に、サイドウイング 2 し、2 R を設ける手段を並べたものである。このサイドウイング 2 し、2 R は頭で

右横方向に押しても余り変形しないような剛性を持たせる。頭とサイドウイングが押し合うとき、滑らない程度の勾配まで許容出来る剛性が望ましい。即ち静止摩擦係数が得られる範囲のためを許す程度の剛性を持たせる。

【0008】 次に、2 人以上の複数人用の椅子の場合の一つには、図 3 に示すように、背もたれの上端部に設けられるヘッドレスト 1 の左右両端から、そのヘッドレスト 1 の長手方向に対してはほぼ直角に設けられ、個人用のものを並列に設けられたものと、類似した構造機能を有する。

【0009】 更に、2 人以上の複数人用の椅子の場合の他の一つ例では、図 5 に示すように、背もたれがヘッドレスト 1 と兼用で一体化される場合には背もたれのヘッドレスト部に相当する高さの位置に、サイドウイング 2 し、2 R を背もたれの長手方向に対してはほぼ直角に設ける手段を並べたものである。

【0010】 以上のような機能を有する例から、長時間同じ姿勢で居る必要がある場合に、本発明のサイドウイング 2 し、2 R を利用して首の強さを増えることで腰痛の予防と治療に役立つものである。

【0011】

【発明の実施の形態】 本発明の主たる目的は腰痛の予防と治療にあるが、これを解決する手段が入が椅子を使用する時間を利用して成果を得ようとするものである。しかし、この発明では個人の意志に基づく行動が必要であり、この行動を起こし易くし、且つ機会を多く作ることである。入が椅子を利用する時間は睡眠時、自動車が通びにつれ多くなる。しかも、椅子に座ると行動が制限され同じ姿勢で居る時間が多くなり腰痛に罹り易くなるのは必然である。

【0012】 ここで本発明の効果的利用方法について説明すると、まず、背はなるべく高くくむくにつれて姿勢で降り、左右サイドウイング 2 し、2 R のいずれかの横に臀部を当て無理のない程度に強く押し当てる。10 秒間前後を目安にその状態を保持し、次に押付力を弱めて行く、即ち押すときは強く、その力を少し弱くしゆっくり力を弱める。これが終わったら反対側の側頭部をサイドウイングに当てて同じ要領で運動を行う。日常生活の手のひらで行うのは効果的であるが、入が椅子に座って長時間同じ姿勢に近い状態にいる場合には手や物を押していたり、肘が横方向に広げ難いことも多々あって実行し難いものである。

【0013】 この運動は既に行うのが首を増える上では効果的であるが、同じ姿勢では 30 分以上保持するのは腰痛の予防と治療には良くないとされておく必要がある。この運動は行ったあと快く感じられることも継続して行う機会を多く作ることに首を増える上に十分役立つことである。

【0014】

3

【実施例】以下図面に示す実施例について、さらに詳細に説明する。

【0015】図1において、椅子の背もたれ4の上端部にヘッドレスト1が設けられ、このヘッドレスト1の両端に、ヘッドレストの左右に対して直角方向に、左サイドウイング2と右ウイング2Rが設けられている。この左右のサイドウイング2し、2Rは人の座高によって高低が調整されるヘッドレスト1に設けられているため同時に高さの設定がなされる。左のヘッドレスト2し、2Rの内側に人の側頭部、特に耳の上部を押し当てる重要な場所である。座る人によって座高が異なっても或る程度適切な側頭部が当たるようにすること、人が正座して背骨を真っ直ぐに伸ばした状態で左右ヘッドレストに側頭部を当てる場合に丁度肩の上あたりに来るように背当角θが付けられている。即ち

$$\frac{\theta}{2} = \tan^{-1} \frac{W}{H}$$

とし、シート5からヘッドレスト1下辺の高さhの位置でヘッドレスト1の幅Wを持った場合の押付角θを与えている。ヘッドレスト1は支持脚3が2本設けられて背もたれに伸張し固定される。この固定の要素は従来技術がさまざま応用出来る。

【0016】図2において、ヘッドレスト1に取付けられる左右のサイドウイング2し、2Rはヘッドレスト1のヘッド当たり面より1度突き出した構造となっている。この1の幅面に縦面と横断部の投影面が入るようにしている。

【0017】図3は、長椅子の背もたれ6の上端部にヘッドレスト1が設けられている例を示す。7は長椅子用座を示し、8は肘座を示す。

【0018】図4は、図3の右側をB-B位置より矢印方向に見たものを示す。肘座8は半固定式となっており強く押せば座もたれ6の下側に入る構造にすることも可能である。この長椅子では個人用が並列に設けられたようなもので隣の入との干渉はない。

【0019】図5は、背もたれを高くしてヘッドレスト部を複数枚入の座席を設けている例を示す。ここにサイドウイング2し、2Rが1人用に必要な間隔で設けられている。このサイドウイングは固定式か、或いは回転式となし向上きに押し上げるか、下向きに押し下げて背もたれの厚さ内に入れてサイドウイング2し、2Rの突出をなくすることも出来る。この例においてもサイドウイング2し、2Rは押付角θが設けられ、先に説明したように人の座高の調整と背骨線上に頭部を真っ直ぐに置いてサイドウイングに押し付けられる側の側頭部の押付位置を適正にするものである。

【0020】図6は、図5のC-C位置から矢印向きに見たものを示す。肘座11が椅子の座に設けられている。サイドウイング2し、2Rは背もたれに設けられているポケット11に押し込めばサイドウイング2し、2

(3)

特開2001-161486

4

Rは背もたれに詰め込むことが出来る。

【0021】図7は、本発明のサイドウイング2し、2Rを移動させたい場合に、それらを上方に押し上げることによってヘッドレスト面からの突出部をなくすることが可能となることを示す。

【0022】図8は、従来のヘッドレスト【2点調整1、3で示す】を有する椅子に座席に装着出来るように、図10に示すサイドウイング取付板14を設け、これにサイドウイング2し、2Rを設ける。サイドウイングとサイドウイング取付板にはピン穴が設けられ、これにピン13を通して支持する。サイドウイング2し、2Rは或る程度抵抗を持たせ容易に回転しないよう締め代を持たせて希望の位置で保持させる。このサイドウイング付ヘッドレストの支持脚3は背もたれの上端部に設けられている支持穴に挿込んで保持させる。

【0023】図9は、図8のD-D位置より矢印方向に見る側面図であり、左サイドウイング2し（2R）が邪魔になる場合には上方に押し上げて2la（2R a）位置に行ってくる。この状態では従来のヘッドレストの調整だけを持たせることになる。

【0024】図10は、図8、図9で示したサイドウイング支持板14の構造図を示す。この図において、符号15はヘッドレスト支持脚3を連結穴であり2面設けられている。符号16はサイドウイングを支持するためのピン13を支持するためのピン穴16である。

【0025】この発明の特徴の一つは、以上の図で説明したように従来のヘッドレスト付椅子の場合にはほとんど改造が必要がなく容易に装着出来ることである。ヘッドレストの無い長椅子の場合には背もたれの改造が必要となるが、背もたれのクロスとサイドウイング2し、2Rを保持する支持脚3の支持脚取付穴が背もたれの背に固定される改造を行うことで目的を果たせる。従って本発明によれば、新しく作られる椅子を止め、現在使用中の或いは完成品に対しても低コストで変換出来ることが特徴であり利点である。

【0026】図11は、サイドウイングの構造例を示す。サイドウイング強度材17は鉄、アルミ、或いは合成樹脂等で作られる。この内側面即ち側頭部押付面には弾性材18が張り付けられている。この弾性材は手のひらに似たような弾性を有する特性を持たせる。この構造では側頭部を押し付けるときに押付面の弾力が緩和されるように作られる。シリコンゴム、或いは一般的なゴムで硬度を低くしてこの目的を果たすものである。その他図面は含められているがヘッド支持パッド18とサイドウイング支持板の間に層を設けた19、ヘッド支持パッド18そのものを中空にするなどして弾性効果を増やすことが可能である。通常は木材では鋼のよりなまらぬ材料であれば炭素繊維、木材、ゴム類、或いは樹脂の合成樹脂等採用することで安価に目的を果たし得ることが判る。

50

(4)

特開2001-161486

6

【0027】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する。

【0028】ヘッドレスト1の両側部にサイドウイング2L、2Rが設けられ、これに側頭部の耳の上側を押し付けて首の歪みが減えられる。特に運動不足に成り落ちる慣性の力に耐えて減えることが出来る。

【0029】飛行機、電車、バス等で遠距離へ長時間椅子を利用して移動する場合に、同じ姿勢で過ごすのは苦痛であり、人体に良くなく疲労に繋がり易い。この時間を利用して首の歪みが減えられる。更に重要なことは、この運動により同じ姿勢でいる場合のストレス解消と同時に快い気分が得られることである。

【0030】人が乗物を長時間利用して遠距離へ移動する場合には疲労は勿論、登降でも屈伸を要する。この乗降進んでしまえば倒れ方向に倒れ、脚の入道に迷惑を掛けることは目撃も掛けた経験もある。このような場合、本発明のサイドウイング2L、2Rがあればこれに頭を預けることで安心した気分が得られる。

【0031】上記のような場合に、起伏の枕を用意し、これを背もたれ側にはヘッドレスト部に当てて、起伏部に首を据めて横方向左右への倒れを防止している例もある。本発明によればそのような倒れ防止用枕は不要になり、更に左右へ体を預けることにより、同じ姿勢から回避出来る。

【0032】人は睡眠中同じ姿勢でいるとストレスがたまり度によりこれを解消しようとする。同じように椅子に同じ姿勢でいるとストレスが溜まり姿勢を変えようとする。このように、首を減えるために運動をするのであるが、その動機が身体 気分リフレッシュする過程で首を減える運動をすれば効果が一段と増すことである。

【0033】この発明は、従来のヘッドレスト1にサイドウイング2L、2Rを付け、これにより首の歪みを減えることで腰痛の予防と治療の一つを行うことが出来る。とともに、長い椅子の椅子でのストレス解消とリフレッシュ気分が得られるので経済効果は大きい。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施例を示す個人用ヘッドレスト付椅子の正面図

- * 【図2】 図1の右側A-Aから矢印方向に見た側面図
- 【図3】 本発明の他の実施例を示すヘッドレスト付長椅子の正面図
- 【図4】 図3の右側B-Bから矢印方向に見た側面図
- 【図5】 本発明の他の実施例を示すヘッドレスト無し長椅子の正面図
- 【図6】 図5の右側C-Cから矢印方向に見た側面図
- 【図7】 本発明のサイドウイングを可動式にした例を示す側面図
- 【図8】 本発明のサイドウイングを従来のヘッドレストに嵌込む例を示す正面図
- 【図9】 図8の右側D-Dから矢印方向に見た側面図
- 【図10】 サイドウイング支持板断面図
- 【図11】 本発明のサイドウイングの他の構造例を示す断面図

【符号の説明】

- 1 ヘッドレスト
- 2L 左サイドウイング
- 2R 右サイドウイング
- 3 支持脚
- 4 背もたれ
- 5 シート
- 6 ヘッドレスト付長椅子背もたれ
- 7 長椅子シート
- 8 肘寄せ
- 9 ヘッドレスト兼用背もたれ
- 10 ボケット
- 11 肘寄せ
- 12 シート
- 13 ピン
- 14 サイドウイング取付板
- 15 支持部通し穴
- 16 サイドウイング取付ピン穴
- 17 サイドウイング補強板
- 18 ヘッド支持パット
- θ: 押付角
- h: ヘッドレスト面長さ
- W: ヘッドレスト幅
- h: シートヘッドレスト下面寸法

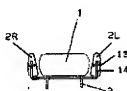
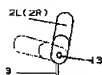
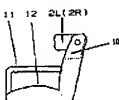
*40

【図2】

【図6】

【図7】

【図8】



(5)

特開2001-161486

